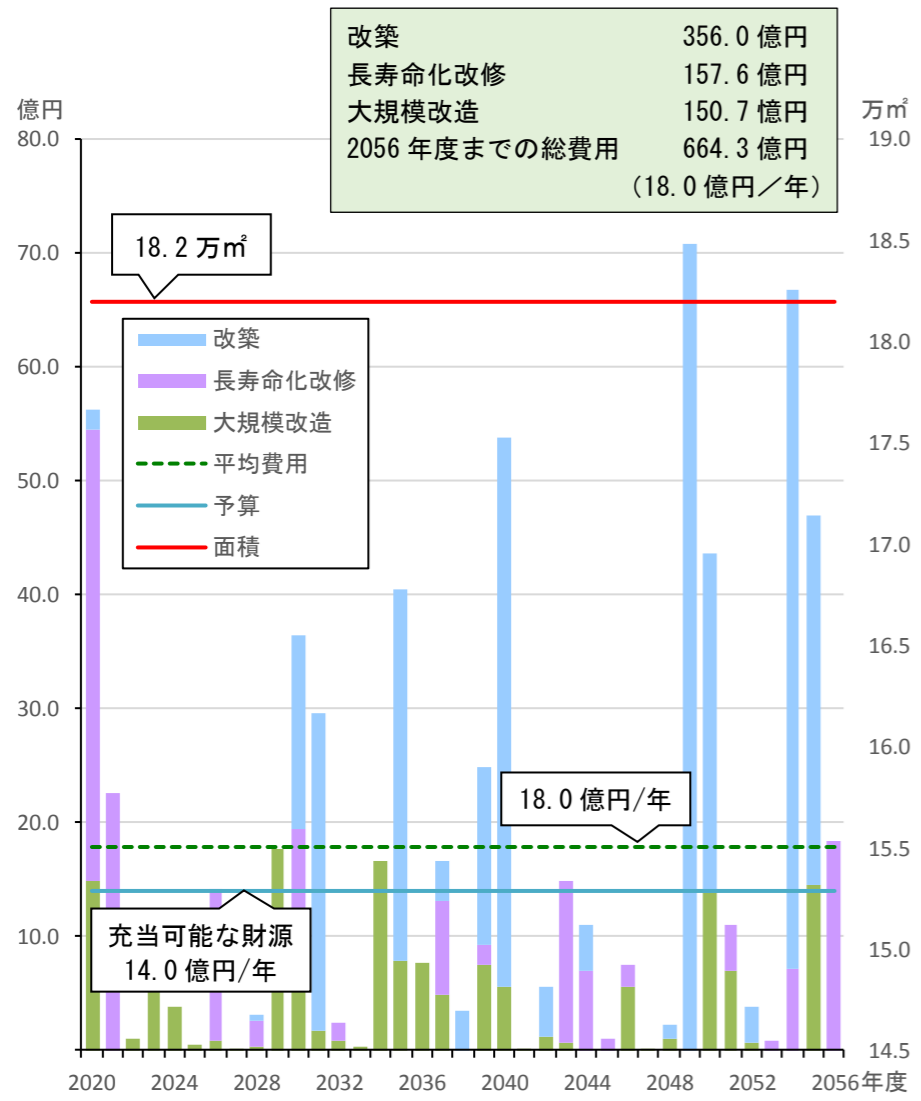


ライフサイクルコストと数値目標の検証

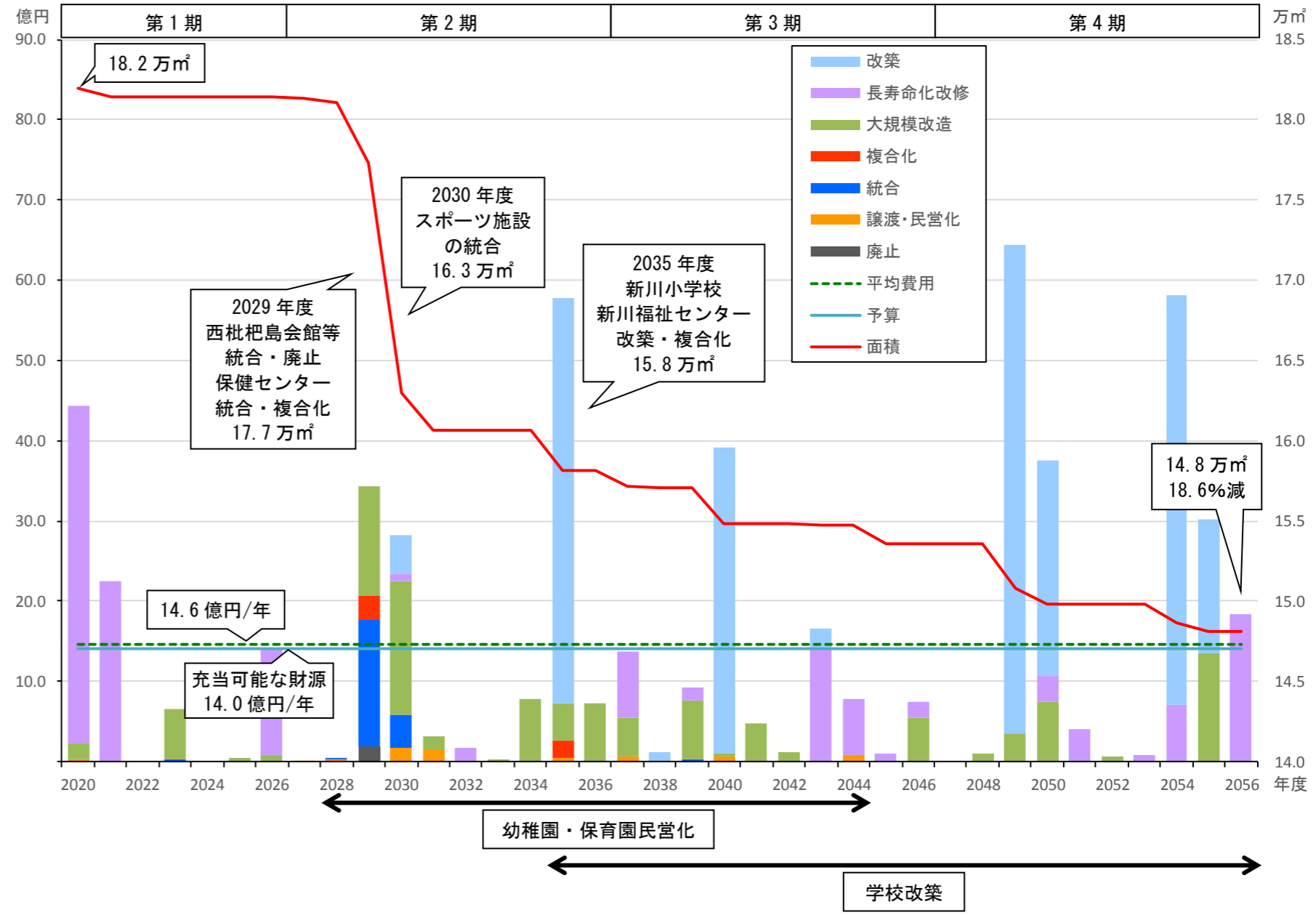
「現状規模のまま全ての公共施設を維持した場合」と「統廃合等により適正配置を実施した場合」の2パターンについて、中長期的な改修・更新等に係る経費を試算・比較するとともに、公共施設等総合管理計画における数値目標（延床面積を17.7%縮減）の達成見込みを確認する。

改築	252.2 億円
長寿命化改修	148.2 億円
大規模改造	112.0 億円
統合・複合化等	27.9 億円
2056年度までの総費用	540.3 億円
	(14.6 億円/年)

現状規模のまま全ての公共施設を維持した場合



統廃合等により適正配置を実施した場合



適正配置方針による効果 → 施設の総延床面積 約18.6%縮減 (18.2万㎡ ⇒14.8万㎡) > 数値目標 17.7% **数値目標達成の見込み**

ただし、改修・更新等に係る費用が約14.6億円/年であり、過去の実績に基づく充当可能な財源（約14.0億円/年）を0.6億円/年程度上回っていることから、維持管理の合理化といったソフト面での対策を含め、更なる適正配置の推進が必要と考えられる。

